

所属・氏名（ 看護 学部 看護 学科 氏名：山崎 登志子 ）

著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
1 (学術論文) 看護師の感情労働とバーンアウト傾向との関連 ― 一般科看護師と精神科看護師との比較 ―	共	2017 年 12 月	ヒューマン・ケア研究 第 18 巻 第 1 号 pp.15～24	感情労働、個人要因とバーンアウト傾向との関連を明らかにするため、一般科看護師 198 名、精神科看護師 300 名に調査を行った。その結果、精神科看護師では一般科看護師より感情労働が多く、バーンアウト傾向は消耗感が強かった。一般科も精神科看護師も感情労働には感情の不協和が正の、患者への共感・ポジティブな感情表出が負の影響を及ぼしていた。(15 頁) (上田智之、 <u>山崎登志子</u> 、下條三和、濱寄真由美)
2 (報告・資料) 看護師におけるがん患者の倦怠感の捉え方とアセスメント指標に関する研究	共	2018 年 12 月	ヒューマン・ケア研究 第 19 巻 1 号 pp.11-22	看護師のがん患者の倦怠感の捉え方を明らかにすることを目的に質問紙調査を行った結果、看護師が捉えるがん患者の倦怠感は、「身体的倦怠感」と「精神的倦怠感」の 2 構成であった。また、看護師経験年数が長くなるほど倦怠感が強く、肺癌事例では、「横になりたい」「身の置き所のないようなだるさを感じる」が重要視されていた。また、看護師経験年数が長くなるほど「全身状態」「発熱」をアセスメント指標として重要視していた。(11 頁) (野間雅衣、 <u>山崎登志子</u>) 担当部分: 共同研究につき本人担当部分抽出不可。
3 (研究成果報告) 精神障がい者の倦怠感の明確化と関連要因の解明―健常者、がん患者との比較を中心に―	共	2017 年 3 月	科学研究費助成事業 (挑戦的萌芽) 研究成果報告書	デイケア通所中の精神障がい者、健常者、がん患者の倦怠感を比較した結果、精神障がい者の身体的倦怠感が健常者より有意に強いこと、倦怠感の関連要因として、精神障がい者では抗精神病薬の種類と量、睡眠、スポーツ活動頻度、日内変動が、健常者ではスポーツ活動頻度が、乳がん患者では睡眠、年齢、サポート、仕事が見いだされ、健康状態に応じた倦怠感対策の必要性が示唆された。 (<u>山崎登志子</u> 、中村百合子、大沼いづみ、松本睦子、俵由美子) 担当部分: 論文全体について計画・調査・執筆を行った。
4 (報告・発表) Relationship between Activity Level, Use of Antipsychotic Medication, and Sense of Fatigue among Community-Dwelling Individuals with Mental Disorders	共	2015 年 10 月	ENDA & WANS (European Nurse Directors ssoiation & World Academy of Nursing science) Congress	デイケア通所中の精神障がい者 163 名を対象とし、倦怠感と関連要因についてアンケート調査を行なった結果、睡眠、運動量、CP 換算値、回答時間帯が倦怠感に有意に関連しており、抗精神病薬の種類と倦怠感の間に有意な関連はみられなかった。 (<u>Toshiko Yamazaki</u> , Yuriko Nakamura, Izumi Ounuma, Noriaki Nukanobu, Hathuyo Kataoka, Hasumi Takashita) 担当部分: : 論文全体について計画・調査・執筆を行った。